

平成28年中の水難事故発生状況

平成28年中の水の事故は29件発生し、21人の方が亡くなりました。

特徴として、

- 発生29件のうち、海での発生は23件、川での発生は6件
- 水難者33人のうち、釣り、魚取り等の行為中が15人、水遊びが12人が挙げられます。

〈 発生概要 〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		29	35	-6
水難者数 (人)	死 者	21	23	-2
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	6	4	2
	無 事 救 出	6	9	-3
	合 計	33	36	-3

〈 平成28年の状況 〉

● 場所別発生状況

()は前年比

場 所	件 数	人 員				
			死 者	行方不明者	負傷者	救 助
川	6 (0)	8 (2)	6 (2)	0 (0)	1 (-1)	1 (1)
海	23 (-5)	25 (-4)	15 (-4)	0 (0)	5 (3)	5 (-3)
池等	0 (-1)	0 (-1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)
計	29 (-6)	33 (-3)	21 (-2)	0 (0)	6 (2)	6 (-3)

● 行為別人員

()は前年比

場 所	行 為 種 別					計
	水 泳	水遊び	ボート遊び	釣り・魚取り等	その他	
川	0 (0)	4 (2)	0 (-1)	3 (1)	1 (1)	8 (3)
海	0 (0)	8 (3)	1 (1)	12 (-6)	4 (-3)	25 (-5)
池	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)	0 (-1)
計	0 (0)	12 (5)	1 (0)	15 (-5)	5 (-3)	33 (-3)

● 年齢別遭難者数

()は前年比

項目 年齢	人員		前年比	り災別人員			
	28年	27年		死者	行方不明者	負傷	救助
0～9	1	2	- 1	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (-2)
10～19	4	2	2	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
20～29	3	1	2	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
30～39	4	3	1	1 (-1)	0 (0)	3 (2)	0 (0)
40～49	4	6	- 2	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (-2)
50～59	1	3	- 2	0 (-2)	0 (0)	1 (1)	0 (-1)
60～69	7	8	- 1	5 (-1)	0 (0)	0 (-1)	2 (1)
70～79	8	7	1	8 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)
80～	1	4	- 3	0 (-4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
計	33人	36人	- 3	21 (-2)	0 (0)	6 (2)	6 (-3)

● 月別発生状況

()は前年比

項目 月	件数	水難者数				
		死亡	行方不明	負傷	救助	
1	2 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
2	1 (0)	1 (0)	0 (-1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
3	0 (-2)	0 (-2)	0 (-2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4	0 (-4)	0 (-5)	0 (-3)	0 (0)	0 (0)	0 (-2)
5	1 (-2)	1 (-2)	1 (-1)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)
6	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
7	11 (5)	11 (5)	10 (7)	0 (0)	1 (-1)	0 (-1)
8	9 (0)	13 (4)	4 (-2)	0 (0)	4 (3)	5 (3)
9	2 (-1)	2 (-1)	2 (0)	0 (0)	0 (-1)	0 (0)
10	2 (-1)	2 (-1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (-2)
11	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
12	0 (-2)	0 (-2)	0 (-1)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)
計	29 (-6)	33 (-3)	21 (-2)	0 (0)	6 (2)	6 (-3)

〈 水難防止のお願い 〉

保護者等の皆さんへ

- 子供たちだけでの水遊びはさせず、目を離さないでください。
- 日頃から危険な場所には近づかないよう言い聞かせましょう。
- 危険な場所で遊んでいる子供を見掛けたら注意してあげましょう。

海や河川へ出掛ける皆さんへ

- 飲酒後や体調の悪いときは、泳がないでください。
- 天候には十分注意してください。
- マリンスポーツや磯釣りなどをする場合は、ライフジャケット（救命胴衣）着用にご心掛けてください。



〈 三重県警察警備艇 あらしま 〉

平成28年中の山岳遭難発生状況

平成28年中の山の事故は57件発生し、2の方が亡くなりました。

特徴として、

- 遭難態様別では、遭難者73人中、半数以上が「道迷い」38人（52%）である。
 - 発生場所別では、発生件数57件中、鈴鹿山系での発生が40件（70.2%）を占める。
- などが挙げられます。

〈 県全体発生状況 〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		57	61	－ 4
遭難者数 (人)	死 者	2	9	－ 7
	行方不明者	1	1	0
	負 傷 者	28	21	7
	無事救出	42	49	－ 7
	合 計	73	80	－ 7

〈 鈴鹿山系発生状況 〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		40	36	3
遭難者数 (人)	死 者	1	4	－ 3
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	21	15	6
	無事救出	29	30	－ 1
	合 計	51	49	2

※ うち御在所岳発生状況

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		13	13	0
遭難者数 (人)	死 者	1	1	0
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	8	5	3
	無事救出	7	13	－ 6
	合 計	16	19	－ 3

〈台高山系等発生状況〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		6	14	- 8
遭難者数 (人)	死 者	1	4	- 3
	行方不明者	1	1	0
	負 傷 者	4	5	- 1
	無事救出	0	4	- 4
	合 計	6	14	- 8

〈その他山系（山城）発生状況〉

区 分		平成28年	平成27年	増 減
発 生 件 数		11	11	0
遭難者数 (人)	死 者	0	1	- 1
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	3	1	2
	無事救出	13	15	- 2
	合 計	16	17	- 1

〈態様別遭難者数〉

年	態 様								計
	道迷	滑落	転倒	転落	疲労	病気	落石	その他	
28年	38	18	6	4	5	0	1	1	73
27年	44	15	4	8	5	2	0	2	80
前年比	- 6	3	2	- 4	0	- 2	1	- 1	- 7

〈年齢別遭難者数〉

()は前年比

項目 年齢	人 員		前年比	り 災 別 人 員				
	28年	27年		死者	行方不明者	重傷	軽傷	救助
0～9	1	0	1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
10～19	1	8	- 7	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(-7)
20～29	9	8	1	0(0)	0(0)	0(0)	1(-1)	8(2)
30～39	13	14	- 1	0(-1)	0(0)	3(1)	1(1)	9(-2)
40～49	9	9	0	0(-1)	0(0)	1(0)	3(2)	5(-1)
50～59	13	13	0	0(-4)	1(1)	3(2)	5(3)	4(-2)
60～69	15	22	- 7	2(0)	0(-1)	4(0)	3(-2)	6(-4)
70～79	11	6	5	0(-1)	0(0)	1(-2)	2(2)	8(6)
80～	1	0	1	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)
計	73人	80人	- 7	2(-7)	1(0)	12(1)	16(6)	42(-7)

〈 月別発生状況 〉

()は前年比

項目 月	件 数	遭 難 者 数				
		死 亡	行方不明	負 傷	救 助	
1	4(2)	6(4)	0(-1)	0(0)	0(-1)	6(6)
2	4(0)	4(0)	0(-1)	0(0)	3(1)	1(0)
3	5(0)	9(2)	0(-1)	0(0)	2(0)	7(3)
4	3(-6)	3(-11)	0(-1)	0(0)	2(-1)	1(-9)
5	9(2)	10(2)	0(-1)	0(0)	7(4)	3(-1)
6	1(-6)	1(-6)	0(-2)	0(0)	0(-1)	1(-3)
7	3(-2)	3(-2)	0(0)	0(-1)	2(1)	1(-2)
8	4(2)	4(-3)	1(1)	0(0)	1(1)	2(-5)
9	5(2)	8(5)	0(0)	0(0)	2(1)	6(4)
10	10(2)	16(6)	0(-2)	0(0)	4(0)	12(8)
11	7(-1)	7(-2)	1(1)	0(0)	4(1)	2(-4)
12	2(1)	2(-2)	0(0)	1(1)	1(1)	0(-4)
計	57(-4)	73(-7)	2(-7)	1(0)	28(7)	42(-7)

〈 山岳遭難防止のお願い 〉

- * 自分の体力や経験に応じた山やコースを選びましょう。
- * 早朝から登山を開始し、お昼過ぎには下山するなど、時間に余裕のある計画を立てましょう。
- * 単独登山はなるべく避け、グループ登山に心掛けましょう。
- * 体調が悪いときや危険を感じたら、無理をせず引き返しましょう。
- * 山の天候は変わりやすいので、気象情報に注意しましょう。
- * 万一に備え、雨衣や非常食等を携行しましょう。
- * 通信手段として充電の完了した携帯電話等を携行しましょう。(携帯電話は通話できない場所があることに注意)

〈 鈴鹿山系を登山される皆さんへ 〉

三重県内での山岳遭難の約半数近くが、鈴鹿山系で発生しています。

鈴鹿山系の山々はハイキング気分で登れる山ではありません。特に、御在所岳はロープウェイを活用し簡単に登れそうに思えますが、登山道は何れも険しく、体力も必要とします。御自身の体力、技術にあった山を選び、しっかりした登山装備を準備し、なるべく単独登山を避け、グループでの登山に心掛けましょう。



〈 山岳警備隊による訓練状況 〉